

# 広報としま新年号はマンガ・アニメ文化特集

## ～マンガの原点トキワ荘から最先端アニメ文化が融合する街をPR～

平成 26 年 1 月 1 日発行の「広報としま」新年特別号は「マンガ・アニメの聖地から描く としまストーリー」をテーマに高野之夫豊島区長、池袋に本店を置くアニメ専門店の高橋豊アニメイト会長、手塚治虫を父にもつヴィジュアルリストの手塚真さんの対談が特集されている。

かつて豊島区には、手塚治虫、赤塚不二夫らのマンガ家が、青春時代・下積み時代を過ごしたアパート「トキワ荘」があった。トキワ荘は昭和 57 年に取り壊され現存はしていないが、地域では「トキワ荘通り協働プロジェクト協議会」を立ち上げ、トキワ荘の文化を地域文化として発信・継承に取り組んでいる。12 月 15 日にも、トキワ荘跡地近くに、新たな観光拠点となる「トキワ荘通りお休み処」がオープンしている。

対談では高野区長が「アニメの原点はマンガ、そしてマンガの原点はトキワ荘ということで、トキワ荘のあった街ならではの文化を豊島ブランドとして発信していきたい」と、手塚さんは「父親(手塚治虫)はトキワ荘というアパートを、同じ志を持つ仲間が集まる場所として大事にしていたのではないかなと思うんですね」。また「区役所の隣に『アニメイト』ができて、1 日 1 万人、たくさんの方が訪れ、池袋のまちの人の流れが変わりまたね。オープンした時、いったいどんな人たちが集まるのだろうと想像もつきませんでした。明るいうもどきになりました」と高野区長の言葉に「お客様の 7 割は女性です。最近のアニメファンはルールも守りますし、イベントの時も自発的に会場整備を手伝ってくれたりします。何よりとてもおしゃれですよ」と高橋さん。3 人の楽しい対談はぜひ、広報としまを手にとって読んでいただきたい。

また、特別号の表紙を、トキワ荘通り協働プロジェクトのスタッフも務めるマンガ家・桐木憲一さんの代表作で『週刊漫画ゴラク』に好評連載中の『東京シャッターガール』の豊島区新春バージョンが飾っている。実は、手塚真さんは昨年、実写映画化された『東京シャッターガール』のオムニバス 3 篇のうち 1 作品の監督も務めている。豊島の街並みを背景に主人公が着物姿でカメラを構えるこちらの作品も必見だ。

広報としま新年特別号は元日に区内で新聞折り込みされるほか、区内の駅などの広報スタンドで手に入れることができる。なお、手に入れられない場合には、元日以降、区ホームページ(HP)の「広報紙 広報としま」からデジタルブックで閲覧することができる。

広報課担当者は「新年にふさわしい華やかな紙面になっています。多くの方に豊島区のマンガ・アニメ文化は誇れるものであることを知っていただきたいです」と語っている

<p>配布方法</p>	<p>日刊紙(朝日・読売・毎日・東京・産経・日本経済)に折り込むほか、区内各駅の広報スタンド、区内ファミリーマート、区内公衆浴場、区内郵便局、区施設の窓口に設置。</p>	
<p>区HP</p>	<p><a href="http://www.city.toshima.lg.jp/koho/21934/index.html">http://www.city.toshima.lg.jp/koho/21934/index.html</a></p>	
<p>写真 *写真はメールで送ります</p>	<p>新年特別号(表紙)</p> 	<p>新年特別号</p> 
<p>問合せ</p>	<p>広報課</p>	